

第1章 環境施策の実施状況

本章では、市民・事業者・市のそれぞれの主体が実施した環境に関する各種の施策について、各主体の報告を紹介するものです。

1 市民の取組

川根消費生活おうびかい桜美会（島田市川根町家山）

川根消費生活おうびかい桜美会は、昭和52年頃、当時の婦人会の先輩方が県からの助言を受け、数名ずつが6カ月間「静岡県通信ホーム講座」を受講した後、その受講終了者により会を組織したのが始まりです。

この会は、消費生活に必要な知識や商品の適正化等を学び、会員相互の協力による消費者保護の体制づくりを目的として発足しました。諸先輩方の活動を引き継ぎ、消費者被害防止の啓発、食品の安全、環境問題等の学習会や研修を受け、地域への広報活動を行っています。

今回は環境問題への取組について報告します。

1. アルミ缶の収集

発会当時は、分別収集が徹底されず「缶のポイ捨て」が多く、会員がアルミ缶を拾い集めて仕分けしたのが取組のきっかけでした。現在では、分別収集が浸透し、アルミ缶が道路脇に捨てられることも少なくなりましたが、会員による収集は継続されていて、収益金はすべて社会福祉のために役立っています。

2. エコキャップ運動に協力

旧川根町では、容器包装リサイクル法によりペットボトルの分別収集を行っていましたが、対象とされないキャップについては、可燃ごみとして処理を行っていました。

平成21年にリサイクル処理施設の視察に行った際、(株)チューサイから「K-MIX」を通して「認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付できることを知り、川根消費生活おうびかい桜美会もこの運動に参加することを決め、以来協力してきました。

平成24年度には、キャップを82.25kg集め、結果41人分のワクチンとして寄付することができました。また、キャップ1kgを焼却すると3.15kgのCO₂が発生するといわれていますので、259kgのCO₂の発生を防ぐことができました。



水洗いで汚れを落とす



各地区から集められたキャップ

3. “もったいない”の精神

女性が中心の活動ですので、不要になった衣類等をごみとして捨てられる前に再活用することを心がけ、日々実践しています。

また、会員が持ち寄った布でスーパーバックを作り、配布する等、マイバック運動の普及に積極的に取り組んできました。また、リュックサックや防災ずきん、帽子などを手作りしています。その他寄付していただいた衣類は、地域のイベント時に安価で販売し、残ったものは養護老人施設でウエスなどとして活用していただいています。



制作風景

現在、川根消費生活おうびかい桜美会は、会員数35名で構成されています。

「捨てればごみ、活かせば資源」を合言葉に、微々たる活動ですが継続していきたいと思えます。

2 事業者の取組

2-1 ジオスター株式会社 金谷工場（島田市金谷河原）

1. 会社概要

私たちは、「人の満足を支える」ことを使命とする「※ジオウェア・メーカー」です。

（※ジオウェアとは、環境に優しい自社のコンクリート製品）

ジオスター（旧社名：日本プレスコンクリート）は、会社設立以来、加圧製法によるコンクリート矢板、下水道整備向けボックスカルバート、耐震性に優れた可とうボックスカルバート、意匠性に優れたモジュラーチ等、次々と特徴のある製品を市場に送り出し、プレキャストコンクリート製品製造でわが国の国土建設に寄与してまいりました。

東京小石川の本社をはじめ技術部・事業部・関連会社を併せると、全国27事業拠点による業務展開を行っています。

「GEOSTR」とは、ジオスター株式会社の社名ブランドで、次の6つが一つになったものです。

G eoware Giant	ジオウェアの第一人者でありつづけます
E ndress Effort	どこまでも努力します
O riginality Oriented	オリジナリティを目指します
S upport Satisfaction	満足を支えます
T hink & Try	考え抜いて、実行します
R eliable Responsibility	信頼にこたえる責任をはたします

2. 金谷工場概要

金谷工場は、昭和35年、日本プレスコンクリート工業株の第1号工場として建設され、圧力養生コンクリート理論に基づいた加圧製法によるコンクリート矢板・スラブの製造ならびにセグメント等の幅広いコンクリート二次製品を良質な材料、豊富な経験、たゆまぬ技術革新をもとに各方面に供給しております。

金谷工場の敷地面積は、およそ建物が18,000㎡、場内ストックヤードが37,000㎡、総敷地面積55,000㎡から成り立っており、主要生産品目は、セグメント、加圧コンクリート矢板、CTスラブ、ボックスカルバート、アーチカルバート、モジュラーチ、ビッグボックス等であります。工場の立地環境としましては、雄大な大井川から供給される豊かな水源、良質な骨材（砂、砂利）に恵まれ、品質の高いコンクリート製品の製造に日々邁進しているところでもあります。



ジオスター(株)金谷工場事務所



製品ストック場にて出荷を待つ製品

3. 当工場環境への取組

コンクリート製品製造の原動力である電気・蒸気（重油）の消費量の削減、または、ボイラーから発生するばい煙、溶接時に発生するヒュームの抑制等、地域・作業者の生活・作業環境を向上させていくのが環境に取り組む重要なポイントと考えています。

- ①デマンド・コントローラーを設置し、場内使用電力量を日々監視しております。
- ②小型貫流ボイラーを5台設置して、パソコンによる台数制御を行い、常に適切な運転を行っています。よって、品質的にも安定しているほか、負荷の状況により経済的な運転となり、重油量の削減、大気への排ガス量の抑制と、環境面に寄与します。



デマンド・コントローラーで電気使用量を管理



ボイラー室の5基の貫流ボイラー（重油焚き）

- ③場内の溶接機は、CO₂（炭酸ガス）溶接機を使用しています。品質面に効果があるほか、従来のアーク溶接機に比べ、消費電力の飛躍的削減、溶接ヒュームが少ない、溶接棒の残材（廃棄物）が発生しない、環境的なメリットがあります。
- ④省エネルギー型照明機器の設置を進めています。照度は従来品より向上する上に、消費電力は1/5以下です。



炭酸ガス溶接による鉄筋籠組立



省エネルギー型照明設備

4. 環境保全協定

ジオスター株式会社と島田市との間で、平成19年3月に環境保全協定を締結しました。

その後毎年度、環境保全協定に基づいて双方協議の上、環境保全計画書を作成し、水質、騒音、振動について日々厳しい管理の下、定期的な報告を行い、基準値を遵守するべく努めております。

2-2 有限会社塚本商店（島田市島）

1. 会社概要

弊社は、昭和58年に創業、平成6年に設立し、島田市を中心に6市町で一般廃棄物収集運搬、静岡県内で産業廃棄物収集運搬・処分、製紙原料の集荷・販売を行っています。

平成24年には、新工場を構え、製紙原料を圧縮する機械を導入し、産業廃棄物処分業の許可を取得して業務拡大しました。近隣の一般市民の資源ごみ（古紙、飲料缶、衣類）の受け入れも始め、環境に配慮したやさしいまちづくりに貢献しています。

また、同年8月には、環境への取組を効果的・効率的に行うためにエコアクション21を認証・登録し、環境方針を踏まえ、環境目標を定め、社員一丸となり環境活動を展開し、環境負荷の低減、環境にやさしい取組に日々努めています。



2. 環境に対する取組

（1）環境方針

弊社では「一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬・処分業者として、事業活動を行うにあたり、循環型社会システムの構築に貢献するとことを目的とし、環境への負荷を削減し、地球環境保全に積極的に取り組むこと。」を基本理念とし、次の行動指針を掲げています。

- 事業活動に伴う環境負荷の低減を目指し、次の環境保全活動を推進
 - a 地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出量の削減
 - b コピー用紙使用量の削減
 - c 自社で発生する廃棄物の削減及び資源化、リサイクルの推進
 - d 水使用量の節減
 - e 化石燃料の節減
 - f 電気使用量の削減
 - g グリーン購入の推進
- 環境保全に関する法律を遵守
- 排出事業者とともに再資源化方法を改善し、廃棄物の削減を推進
- 選別作業の改善によりリサイクル品質を向上し、廃棄物の削減を図る
- 環境方針を達成するため、環境目標を設定し、全従業員で取り組む
- 環境方針は、全従業員に周知するとともに公表

（2）主な取組

①電力使用量の削減

- 室内空調は、夏28℃、冬22℃を標準とし、過剰な冷暖房を抑制
- 不要な照明の消灯
- 省エネタイプOA機器の導入

②自動車燃料使用量の削減

- 無駄なアイドリングの禁止
- 車輜整備の励行による燃費の向上

- ・急発進、急加速の禁止
- ・適切な配車及びルート選定による効率的な運転の推進
- ・過積載禁止
- ・エアコンは控えめにし、作業中はOFF

③廃棄物排出量の削減

- ・工場内での選別作業の改善によるリサイクル品質の向上
- ・コピー用紙の裏面使用
- ・電子化による書類の削減
- ・不要紙のメモ用紙等転用
- ・使い捨て製品の購入を抑制

④水資源投入量の削減

- ・洗車時の節水
- ・余分な水を使わないよう、蛇口の開閉を徹底
- ・水道配管からの漏水を定期的に点検

⑤グリーン購入の推奨

- ・文房具等の新規購入において、エコマーク付を優先的に購入

⑥環境教育の推進

- ・社員に対し、定期的な環境教育を実施

3. 今後の活動

エコアクション21の取組を始めてからもうすぐ2年になりますが、ようやく全体的に環境方針が浸透してきました。

我々は、廃棄物収集運搬・処分業者として、環境とは切っても切り離せない仕事をしていますので、他の業種よりも一層意識を高く、環境負荷の低減に努めていきたいと考えています。

また、エコアクション21の認証・登録に満足せず、産業廃棄物処理業の実施に関し優れた能力及び実績を有す

者とされる優良産廃処理業者認定も視野に入れ、積極的に環境保全に取り組んでいきたいと思ひます。



3 行政の取組

3-1 エコアクション21の全対象施設における認証取得完了

1. 平成24年度 更新審査

平成24年度の更新審査において、保育施設、小中学校及び看護専門学校を新たに追加し、市で実施している全ての事務事業が認証・登録範囲となりました。

また、更新審査は、平成24年12月10日（月）、11日（火）の2日間、2名の審査人により行われました。

審査は、審査内容とスケジュールを確認する事前打合せから始まり、審査人から審査内容等の説明がなされ、事務局へのヒヤリング、途中には市長へのインタビューも含め、2日間、対象の部署の現地審査が行われました。

現地審査1日目は、島田第二中学校、島田初倉南小学校を含む10箇所の組織、2日目は、看護専門学校を含む7箇所の組織の審査が行われました。

審査人からは、全体を通して、平成24年度の取組は、エコオフィスの取組でなく本来業務に即した取組がされているが、今後は、数値目標の設定も積極的に取り入れていくことが必要である。また、外部の施設で環境負荷の小さい所、大きな所など様々あり、一律の環境負荷削減ではなく、それぞれの状況に応じた削減目標の設定を行うとより効果的な削減が期待できるといった助言もありました。

現地審査の様子

初倉南小学校

看護専門学校



風力発電



太陽光パネル



ヒヤリング状況

2. 今後の取組について

エコアクション21の取組を進めるため、職員研修、内部監査を継続していきます。

各所属でも独自の取組を行っていますが、エコオフィスの活動となっているところもまだ見受けられるため、市民及び地域への働きかけにつながる活動に重点をおいて取り組んでいきます。

独自の取組事例（川根支所）



グリーンカーテンを設置し、夏季の冷房使用を抑制している。（写真左）

職員手作りの雨水タンクにより、雨水を水遣り等に再利用している。（写真右）

エコアクション21の全対象施設における認証取得完了までの流れ

